

事務事業名		子ども郷土芸能まつり開催支援事業		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業																									
政策体系	政策名	0 3 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間																										
	施策名	1 3 地域の歴史・文化資源の継承		区分																										
	基本事業名	0 2 伝統文化の継承		単年度繰返																										
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入																										
所属	部課名	教育委員会事務局教育総務課		【開始年度】																										
	課長名	伊藤 真紀子		-																										
	係名	文化財係	電話	0192-27-3111																										
	担当者	佐々木 智紘	内線	296																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分																										
<p>民俗芸能の後継者育成を図るため、隔年で実施する大船渡市子ども郷土芸能まつり実行委員会に補助金を交付する事業。事業の内容は、①補助金交付申請受付、②申請内容審査、③補助金交付決定、④補助金精査に係る審査等</p>				D 補助金等																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																										
<p>民俗芸能の後継者育成を図るため、隔年で実施する大船渡市子ども郷土芸能まつり実行委員会に補助金を交付する事業。事業の内容は、①補助金交付申請受付、②申請内容審査、③補助金交付決定、④補助金精査に係る審査等</p>				<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金																											
		都道府県支出金																												
		地方債																												
		その他																												
		一般財源																												
	事業費計(A)	0																												
	人件費	正規職員従事人数																												
延べ業務時間																														
人件費計(B)		0																												
トータルコスト(A)+(B)		0																												

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
<p>前年度実績(前年度に行った主な活動)</p> <p>市制施行70周年記念事業として、市郷土芸能活性化事業実行委員会が主催する「黄金けせん! 民俗芸能大祭part6」と共催し、児童生徒の練習成果発表の場を設け、次世代への継承の機会を創出した。当初5団体が出演予定であったが、コロナウイルスの影響で当日出演は4団体となった。</p> <p>今年度計画(今年度に計画している主な活動)</p> <p>隔年開催により実施しない。</p>	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 補助金交付回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 補助金交付回数	回	イ		ウ	
名称	単位								
ア 補助金交付回数	回								
イ									
ウ									
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
大船渡市子ども郷土芸能まつり実行委員会	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 子ども郷土芸能まつり出演団体</td> <td>団体</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 子ども郷土芸能まつり出演団体	団体	キ		ク	
名称	単位								
カ 子ども郷土芸能まつり出演団体	団体								
キ									
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
円滑に事業を運営してもらう。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 市補助金額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 市補助金額	千円	シ		ス	
名称	単位								
サ 市補助金額	千円								
シ									
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)									
子ども郷土芸能まつりを通じて、多くの児童生徒が民俗芸能に興味・関心を持つことにより、市内各地域に伝承される民俗芸能が次世代に継承される。									

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)
				千円						
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	0	0	500	0	400	0	
	事業費計(A)		千円	0	0	500	0	400	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	0	0	4	0	3	0	
		延べ業務時間	時間	0	0	180	0	100	0	
		人件費計(B)	千円	0	0	720	0	400	0	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	1,220	0	800	0	
⑤活動指標		ア	回	-	-	1	-	1	-	
⑥対象指標		カ	団体	-	-	4	-	7	-	
⑦成果指標		サ	千円	-	-	500	-	400	-	
⑦成果指標		シ								
⑦成果指標		ス								

事務事業ID	1057	事務事業名	こども郷土芸能まつり開催支援事業
--------	------	-------	------------------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	旧三陸町で合併前から「三陸郷土芸能まつり」として実施していた。合併後は青少年が民俗芸能を披露する場として後継者育成という主旨で実施している。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	民俗芸能の後継者不足のため、対策が必要である。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	住民、民俗芸能団体から継続して実施して欲しいとの意見がある。

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている      ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかか？意図することが結果に結びついているか？ 民俗芸能の保存継承に取り組む児童生徒等に日頃の活動の成果を広く市民に紹介する機会を提供し、後継者育成、技術練磨を図ることができる。また、継承活動については、各芸能団体に所属する地域住民同士の活気を生み出すことから、市の将来都市像の実現に貢献する事業である。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である      ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 後継者育成のため、市の関与は必要であり妥当である。今後はより効果的に事業を運営するため、市の関与は継続しつつ民俗芸能団体等の民間の活力を活用していく必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である      ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない      ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 発表としての場だけでなく、民俗芸能に携わっていない児童生徒等に興味を抱かせる場にするなど、更に後継者育成に繋げるため、事業の在り方を検討する必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある      ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 少子高齢化の中、児童生徒の民俗芸能を発表する場の減少は、貴重な後継者育成の機会が失われることになり、市内の民俗芸能の存続にも影響を及ぼす。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない      ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 現状のまま事業費を削減すると出演団体の削減につながるため、開催方法の検討が必要がある。今後は他催事等との統合等や、財源に係る情報収集を行うことにより、集客や運営費の圧縮に努めていく必要がある。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない      ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 大船渡市郷土芸能協会等の民間団体を主体として運営することができれば、人件費削減に繋がる。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である      ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 民俗芸能の後継者育成の場として入場料を無料とし、一般に公開しているため、受益者負担は公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
2 改革改善(縮小・統合含む)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×	民俗芸能の担い手や指導者については、少子高齢化の影響により減少傾向にある。加えて、コロナ禍により、多くの芸能団体が練習できない状況にある。民俗芸能を継承するためには、練習成果の発表の場を確保することが重要であるため、他催事や市郷土芸能まつりとの統合など、今後のまつりの在り方について、市郷土芸能協会との協議や、財源に係る情報収集を行う必要がある。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上	●																							
	維持			×																					
	低下		×	×																					
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																									

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	まつりは、民俗芸能の後継者育成と披露の場であるとともに、民俗芸能に係る市民の意識啓発のための貴重な機会となっている。民俗芸能の次世代への継承活動を継続するため、効果的なまつりの在り方について、財源も含め関係団体と協議していく。